

1. 確実に支援につなぐ ～寄り添いつながる相談援助～

成果

相談及び支援機会の充実

- 乳児家庭全戸訪問事業（面談率98.4%）
- 出産子育て一時金事業開始（R5）
伴走型で情報を届ける機会確保（全数アプローチ）
- こども総合相談窓口、とよなかつ子ダイヤル開設（H27）24H365日相談可
- 若者支援総合相談窓口開設（H30）
- その他オンライン相談や訪問支援等の充実、各種相談窓口の開設・相談会の実施 など

こども自身が相談しやすい体制づくり

- とよなかつ子ライン開設（R2）、タブレット端末からも相談できるよう設定（R3）

一体的相談支援体制づくり（母子保健・児童福祉・障害児支援・教育）

- はぐくみセンター（児福法「こども家庭センター」）設置（R5）
- こども家庭支援システム（一元化システム）構築（R4）

支援の入口
は増加

課題

児童虐待相談件数等は増加傾向

- 児童虐待相談件数・対応件数は年々増加（R元 1,708件→R3 2,304件）
- 不登校児童数の増加（R2 513人→R5 1,020件）

こども・家庭への迅速かつ丁寧で切れめない支援の強化

- 「すべてのこどもの健やかな成長、幸せな状態（Well being）の向上」「分野横断的・重層的な支援の推進」等がより一層必要

予防的な関わりの強化・身近な場所で早期支援

- 市民より「どこに相談したらよいかわからない」などの声があり、わかりやすい一元化した相談体制づくり及び周知が必要
- こもりがちな親子への支援（課題を抱えるこども・家庭の潜在化）

関係機関のさらなる連携強化

- 複合的な課題を抱えたケースが増加
- こどもの居場所に関する団体や学校・地域、福祉との連携強化

迅速かつ丁寧で切れ
めない支援の強化、
確実な支援が必要

今後の方向性

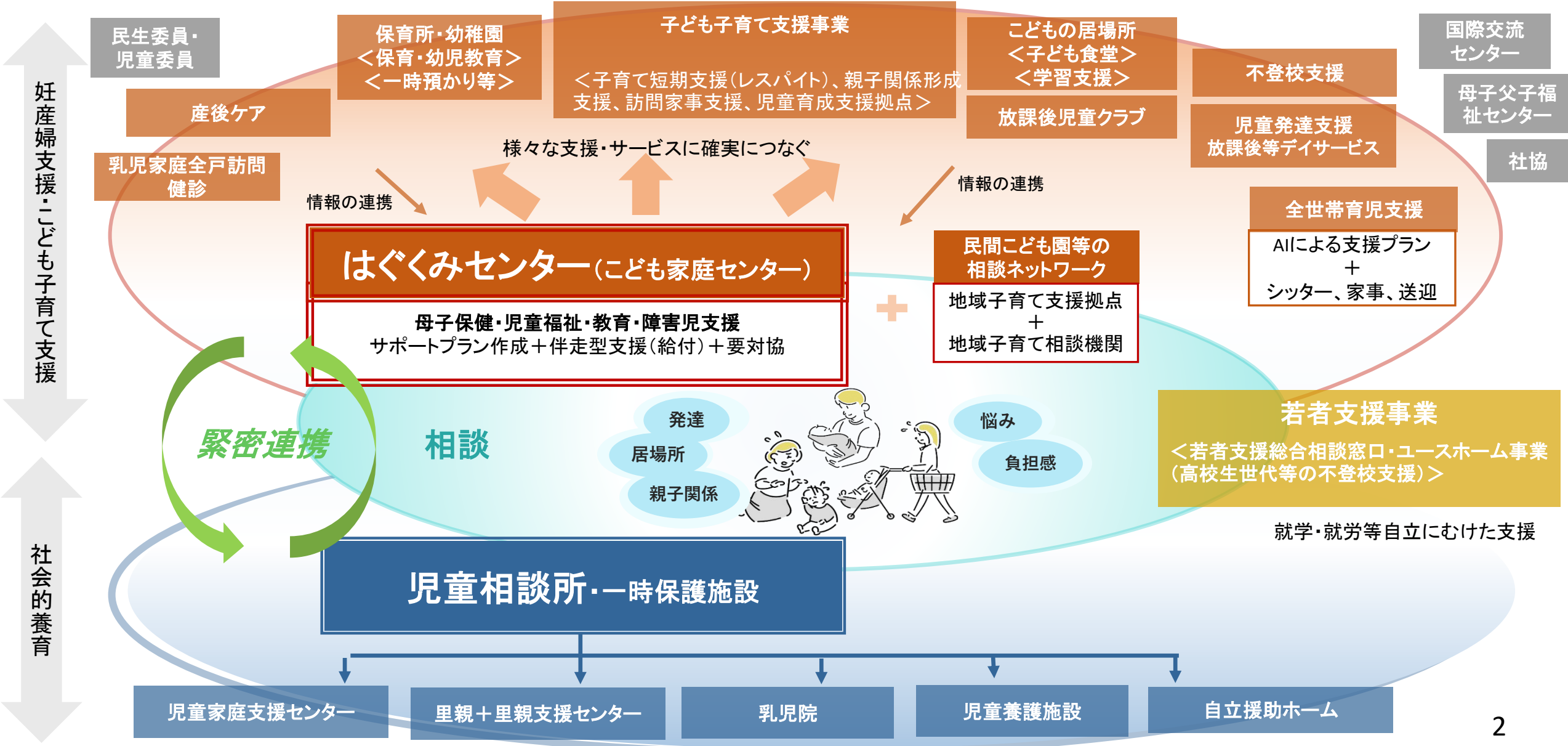
- 地域の身近なところで気軽に相談でき、ニーズに応じて関係機関やサービスにつながるしくみづくり
- 支援・サービスの質・量・種類を確保し、「はぐくみセンター」と「児童相談所」を中心として「若者支援総合相談窓口」など各相談窓口や関係機関が一体となった包括支援体制の構築
- 個別に応じたサポートプラン等、一人ひとりのニーズに応じて切れめなく「確実に支援に結びつける」しくみの構築

～丁寧に寄り添い
確実に支援につなぐ～

重点施策案1 確実に支援につなぐ

はぐくみセンターと児童相談所を中心とした包括支援体制

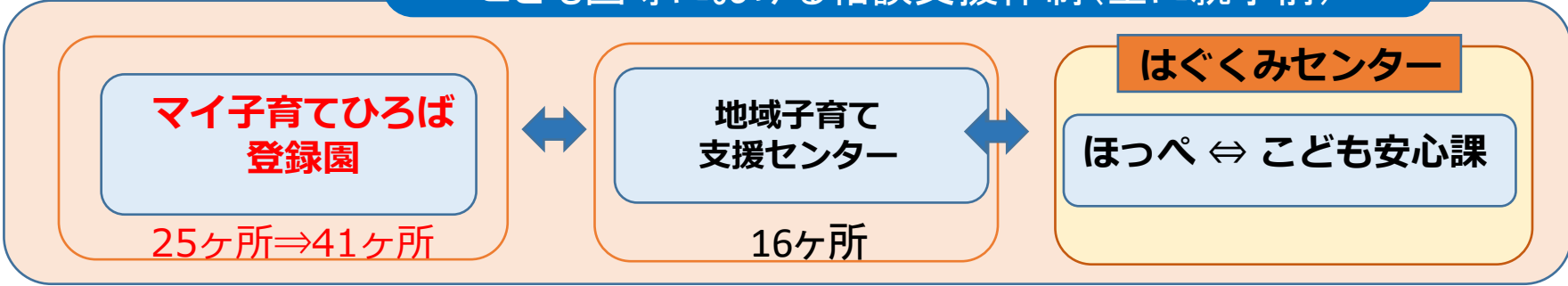
はぐくみセンターと児童相談所を2つのコントロールタワーとし、包括的な支援体制を築き、こどもと子育て世帯をまるごと支援



重点施策案 1 確実に支援につなぐ

地域の身近な相談支援について

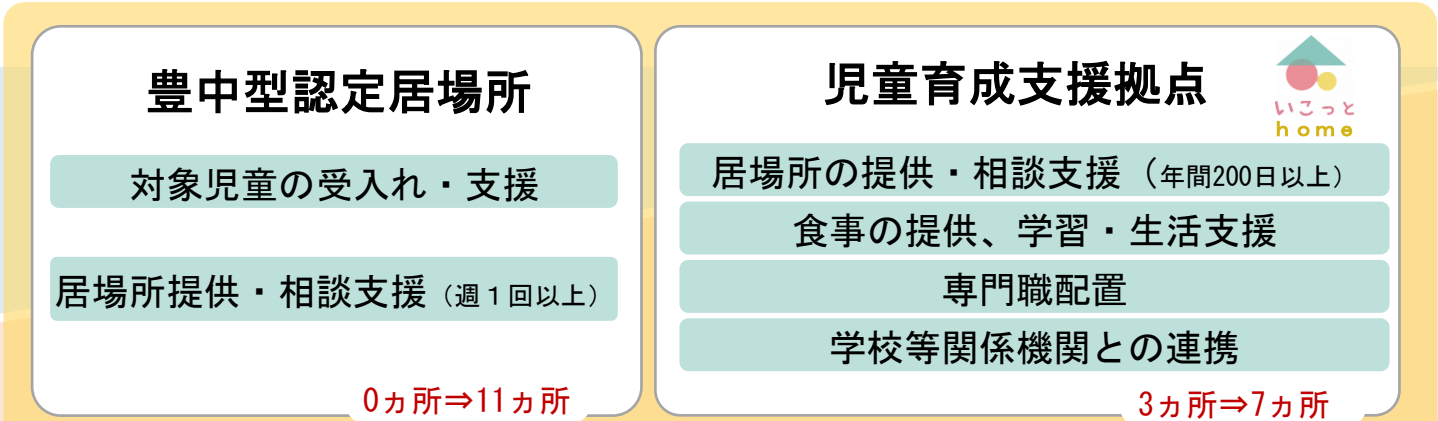
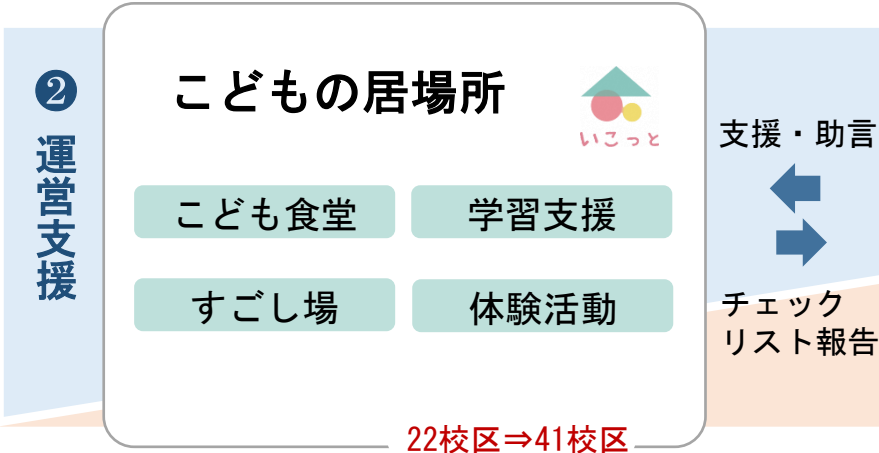
こども園等における相談支援体制（主に就学前）



●妊婦及び在宅で子育て中の方を対象に、子育てに関する不安を解消するため、地域の身近な子育て支援の拠点として公立こども園及び民間保育施設に「マイ子育てひろば」を導入。
●はぐくみセンターや地域子育て支援センターと連携する仕組みを新設し、また継続的な支援や専門的な支援が必要な人については、**必要な支援に確実につなげる。**

こどもの居場所における相談支援体制（主に学童期）

主に支援層を対象とする①支援型居場所を拡充し、対象者に応じて居場所の②運営支援や支援力向上を体系化するとともに、既存の地域の居場所も含めた③全体のネットワーク化（チェックリスト作成、評価指標開発等）を行い、継続的・専門的な支援が必要なこども・家庭を確実につなぐ体制を構築。



① 支援型居場所の拡充

③ 全体のネットワーク化

2. 子育てはみんなで ～子育ての社会化～

子育ての不安・負担感
子育て家庭と地域とを結び
付ける取組みの促進が必要

成果

就学前保護者のワーク・ライフ・ バランスの向上

- WLBがとれていると感じる就学前保護者の割合が増加

母親の就労者増、育児休業の取得者増加

- 就学前の母親のフルタイム就労者が増加、育児休業の取得者は母親、父親ともに増加

地域の子育て支援に向けた関係機関・団体の連携推進

- 人材バンク登録制度「いこっとサポーター」、「とよなか子育て応援団」事業、校区連絡会、地域教育協議会を通じた連携推進
- 教育関係機関、大阪府警察本部、市内幼年消防クラブ、校区自主防災組織等の各種連携事業の実施

父母のWLB格差は減少傾向
こどもの自己肯定感UP

課題

保護者の負担軽減、不安感の解消

- 仕事や趣味など自分の時間が十分とれない保護者割合増加
- 保護者の子育ての不安感・負担感の増加
(就学前40.9 →49.3%)

身近な人に頼れていない実態

- 代わりにこどもをみてくれる人がいない保護者の減少
- 悩みを相談できる友人・知人、育児仲間がいる保護者の減少

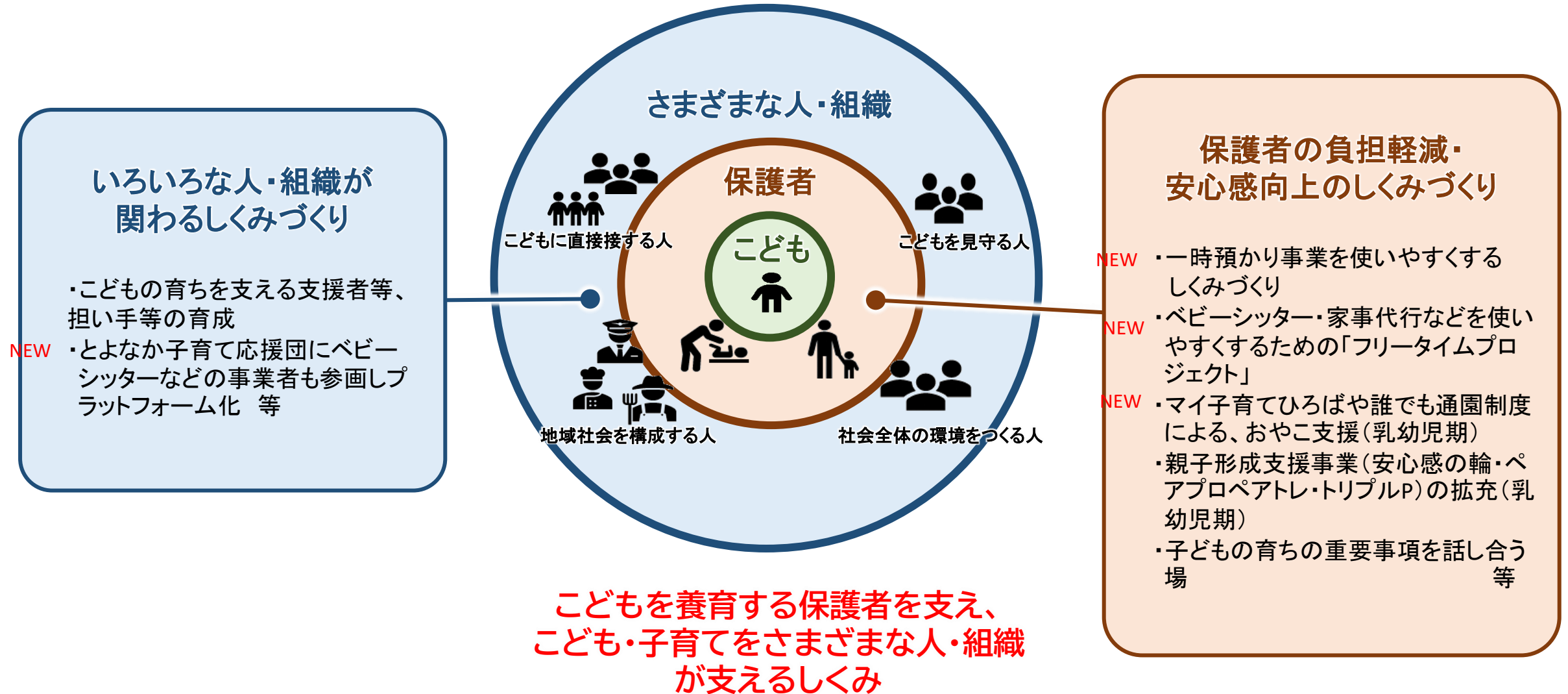
地域の子育て支援のさらなる拡充・連携強化

- 子育てが地域に支えられていると感じている人の減少
- 安心して子育てするためには、地域ぐるみの活動が必要とする小学生保護者の割合が増加
- 今は難しいが、いずれ地域の子育て支援の取組みに参加したいとする保護者の割合は高い

今後の方向性

- 保護者の負担軽減・安心感の向上のため、子育ての楽しさや意義を感じ余裕をもって子どもと向き合えるよう、多様なニーズに応える施策・事業の充実
- 様々な人・組織が子育て支援の担い手や支援者・団体として連携強化していくしくみの構築

より社会全体でこども子育てを支える事業展開



3. こどもとともに

～こども自身による多様な参画～

成果

体験・交流機会、考える機会の充実

- こどもの社会参加事業の拡充(38→41事業)
 - ・「豊中市こども健やか育み条例」出前講座
 - ・明日の親のための講座
 - ・事業者と連携したキャリア教育
 - ・ライフデザイン支援情報誌の作成
 - ・その他音楽、スポーツ、フェスタ、図書に親しむ機会 など

「自分のことが好き」なこどもの割合が増加

(小60.1→66.7%、中54.6→58.8%、高47.4→57.6%)

こどもが意見表明できる機会の充実

- 育みプランの事業実施状況の説明とヒアリングの継続実施
(5年間で延べ●人参加)
- 「生徒会シンポジウム」等の継続実施

こども自身を守る取組みの推進

- こども自身のメンタルヘルス、消費者教育の実施

こどもの自己肯定感UP
こどもの社会参加機会は増加

課題

体験・交流機会、考える機会の拡充

- 高校生年代の学校以外での活動への参加経験が減少
- 将来の夢をもっている割合が減少
- 将来の夢について社会のために役に立つより自分の好きなように暮らすことを好む声が増加

こどもが意見表明できる機会の拡充

- 大人への思いで「自分の話をもっと聞いてほしい」こどもが20%程度、「子どもが大人に対して意見を言える機会・場所を作ってほしい」こどもが20%程度もいる
- 自分のことをわかってくれる人がいるかとの設問に「だれもない」と答えている中高生が約7%もいる
- 不安や悩みを話したかったが話せる人や場所がなかったこどもが約3～5%もいる

こどもの社会参画促進・意見の反映

今後の方向性

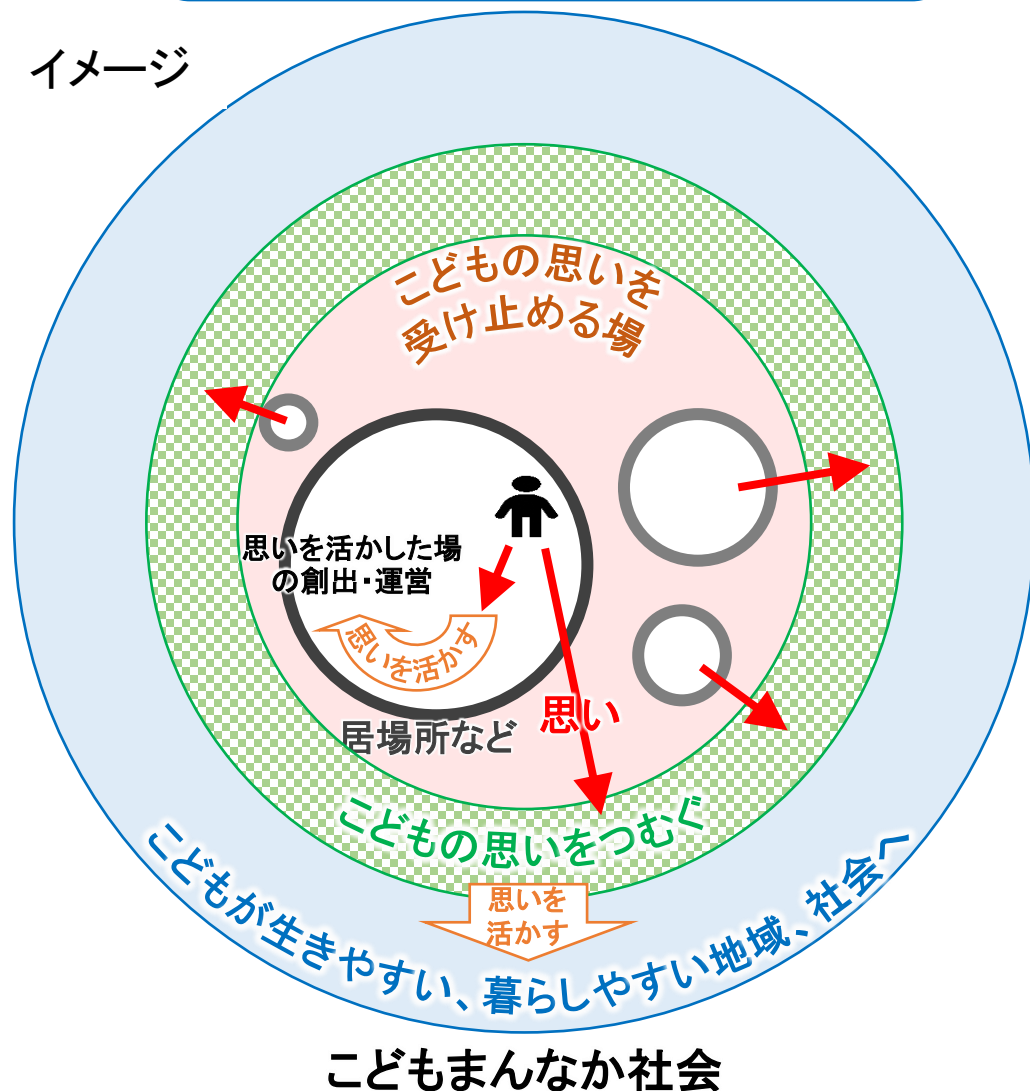
- こどもが権利の主体であることを、こども自身も実感できる取組みの強化
- こどもが意見表明できる機会や役割をもって主体的に社会参画できる機会の充実
- 自分らしい生き方の選択や自立して生きていくために必要なこと、自分を守るすべを知る取組みの強化
- 周囲の大人への啓発(「こどもが意見や気持ちを言ってい、表現してい」という雰囲気づくりや機運醸成)

こどもの権利・社会参画が保障される環境づくり

重点施策案3 こどもとともに

こどもの思いを受け止める場の充実

イメージ



社会参画・意見表明のしくみづくり

社会参画

意見表明

- 高校生・大学生年齢の若手ボランティアと市の事業の担い手をマッチングする取組み推進
- こどもへのヒアリング実施(出張ヒアリング、毎年のヒアリング等)
- 意見表明等支援事業 など

こどもの自己実現支援

- 主権者教育の推進
- ライフデザイン支援
- こども自身のメンタルヘルス
- 金融教育、消費者教育の推進 など

大人がこどもの思いを聴けるような社会づくり

- 条例の周知(地域への出前講座等)
- 研修会の実施
- 家庭教育支援事業
- 地域で子育てを考える学習会
- こどもの居場所ネットワーク
- こどもまんなか円卓会議 など